

2018年度 第16回 広島県高校生英語スピーチコンテストを審査して
(2018年11月17日(土) 13:00～ 於福山大学1号館 01101教室)

審査委員長 中尾 佳行 (福山大学・教授)

今年度(以降)は、賞品の変更に伴い(カリフォルニア大学リバーサイド校への英語研修奨学金が支給されないこと)、どのくらいの応募者があるか正直不安であったが、広島県の東西南北、計8つの高校から19人のコンテストがあった。高校生にとって賞の質は問題ではなく、この場はもっと神聖で、他流試合を通して自分の経験を広げ、深めてみる将来への一つの試金石であった。この度のスピーチコンテストのテーマは”Acting Today to Succeed Tomorrow”であったが、高校生がこの舞台に昇ること自体がまさにこのテーマを体現すること、彼らの将来への一つの貴重な伏線になったであろう。コンテスト前に大きな怪我をし、松葉づえで参加した高校生もいた。その心意気を大いに評価したい。

例年になくレベルの高いスピーチコンテストであった。甲乙つけがたく審査には大変苦労した。スピーチのトピックは多岐に渡り、自分の今の経験をどのように将来に生かしていくか、社会的かつ普遍性のある英知を読み取っていた。人権・ポリティカルコレクテネスの問題から一人ひとりの幸せとは何かの内省と提言、群にまみれるのではなく一人で自分を見つめることの意義、人生を彩り、豊かにしてくれる音楽の可能性、環境問題に対応するためのITの活用、日常の中での非日常的なものの発見、グローバルに見た子どもたちの教育への支援の在り方、自分の失敗を通して失敗こそ成功への第一歩であるということへの気づき、など。7人の審査員が審査基準に即して厳正に評価し、境界線上のコンテストについて、協議して選考した。審査基準としては、例年通りスピーチの言語(語彙、文法、音声)、パフォーマンス(聴衆とコミュニケーションをとっているか、プレゼンテーションの濃淡・軽重、アイコンタクト、適度なジェスチャーなど)、そして論理性とオリジナリティを評価した。審査委員の一人から出た言葉であるが、グローバル化した今の社会では、英語力は4技能ではなく、5技能が必要とされる、と。4技能であるスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングに対し、5番目の技能「プレゼンテーション力」である。スピーチコンテストでは自明のことではあるが、この5番目の技能を最大限に評価しており、ある意味で日本を取り囲む客観状況が本コンテストに近づいてきたとも言える。

審査委員間で事前に確認したことだが、パフォーマンスにあまり引っ張られず、テーマとスピーチの整合性、コンテンツの論理的な展開、そしてコンテスト個人の実験に裏打ちされたオリジナリティをしっかりと見ていくことにした。この点においてもコンテストのプレゼンテーションは質的に相拮抗した。審査は量的評価と質的評価を統合し、最

最終的に決定した。審査基準として特に 5 番目の技能をどのように評価していくのか、今後に向け、更なる工夫が必要である。テーマとスピーチの有機的な連携、個人の経験と一般化の問題、オリジナリティとは何か、など、審査基準をより精緻なものにしていきたい。

この度のスピーチコンテストのレベルアップは、日頃からご指導されている先生方の志の高さにご努力のお蔭だと思っています。ここに記して感謝いたします。